

人間の経済

第2期 第 **50** 号 (通巻 128号) 2006年6月19日

目次

週刊マーケットレター (06年6月19日週号)

主要マーケット指標

日銀の信用揺らぎ金融規律は緩む

米・EUの金融引き締めにより商品市況は反落へ

曾我 純

WATと近隣形成

森野 榮一

quote of this week/利欲の心

週刊マーケットレター（06年6月19日週号）

2006年6月18日

曾我 純

■主要マーケット指標

| 為替レート | 6月16日（前週） | 1カ月前 | 3カ月前 |
|-------------------|--------------------|----------|----------|
| 円ドル | 115.15(113.95) | 109.75 | 116.80 |
| ドルユーロ | 1.2640(1.2915) | 1.2860 | 1.2180 |
| ドルポンド | 1.8495(1.8415) | 1.8880 | 1.7565 |
| スイスフラン | 1.2310(1.2315) | 1.2075 | 1.2885 |
| 短期金利（3カ月） | | | |
| 日本 | 0.31750(0.30250) | 0.19000 | 0.10563 |
| 米国 | 5.41375(5.31000) | 5.17250 | 4.93000 |
| ユーロ | 2.97250(2.95100) | 2.88413 | 2.70575 |
| スイス | 1.48000(1.47000) | 1.40000 | 1.22167 |
| 長期金利（10年債） | | | |
| 日本 | 1.805(1.845) | 1.960 | 1.725 |
| 米国 | 5.13(4.97) | 5.10 | 4.64 |
| 英国 | 4.62(4.58) | 4.63 | 4.31 |
| ドイツ | 3.94(3.92) | 3.97 | 3.64 |
| 株 式 | | | |
| 日経平均株価 | 14879.34(14750.84) | 16158.42 | 16096.21 |
| TOPIX | 1534.71(1498.68) | 1644.97 | 1645.06 |
| NYダウ | 11014.55(10891.92) | 11500.73 | 11253.24 |
| S&P500 | 1251.54(1252.30) | 1292.08 | 1305.33 |
| ナスダック | 2129.95(2135.06) | 2229.13 | 2299.56 |
| FTSE100（英） | 5597.4(5655.2) | 5846.2 | 5993.2 |
| DAX（独） | 5376.01(5464.08) | 5851.92 | 5897.79 |
| 商品市況（先物） | | | |
| CRB指数 | 339.22(340.09) | 353.20 | 327.55 |
| 原油（WTI、ドル/バレル） | 69.88(71.63) | 69.53 | 63.58 |
| 金（ドル/トロイオンス） | 578.0(608.2) | 691.5 | 554.4 |

■ 日銀の信用揺らぎ金融規律は緩む

日銀の福井総裁が村上ファンドに1千万円を拠出していたことがあきらかになった13日、株式は614円安と米同時テロ直後の01年9月12日以来の下げ幅を記録した。ゼロ金利は容易に解除できないという見通しが強まり、債券は買われ円は売られた。

福井総裁は村上ファンド以外にも株式を保有しているという。日銀の最高幹部であり、金融政策決定会合の議長である日銀総裁が、株式の取得・売却を報告義務だけで済ますこと

ができる日銀の内規にも問題があるが、福井総裁はあまりにも地位にふさわしくない資産管理をしていたといえる。日銀の内部規定も杜撰であり、一部の政策委員には信託に預けるように忠告していたようだが、身内の総裁にたいしては具申することも憚られるのか、あるいは信頼しきっていたのか、株式を信託に預けることもなく、村上ファンドへの投資も放置されたままになっていた。

日本銀行の接待汚職事件で98年3月、日銀副総裁を退任した福井総裁は、99年に村上ファンドに抛出したという。日銀不祥事のことは忘れて、不祥事を起こし逮捕された人物のファンドに関していたのである。村上はインサイダー取引で金儲けをして捕まったが、福井総裁もインサイダーを他人事のように考えていたのであろうか。これだけインサイダー取引が喧しく言われているなかで、金融政策のトップがインサイダーに疎い資産管理をしていたとはもってのほかで、金融政策など論じる資格はないのではないか。一度不祥事の責任を取り辞めた人物が、最高幹部のポストに就くという人事を遂行した責任は重い。

小泉首相は福井総裁の交代を考えていないと述べ、続投させるようだが、これで、日銀の政府寄りの姿勢は強まり、異例のゼロ金利の解除は遠のいた。ゼロ金利により、金のコスト意識は薄れ、不健全な経済部門へ金が流れ込むことになる。バブルが破裂しつつある株式市場もゼロ金利の長期化により息を吹き返すことになるかもしれない。日本と米国・EUとの金利差拡大によって、円は予想外に弱くなる可能性もある。政府の国債発行による利払いコストも低下し、国債発行が引き続きルーズに行われることになる。日銀が政府の言いなりになるリスクは高まり、金融政策の自由度は失われ、実物経済に比べマネー経済が膨らむ不健全な経済に突き進むことになるだろう。

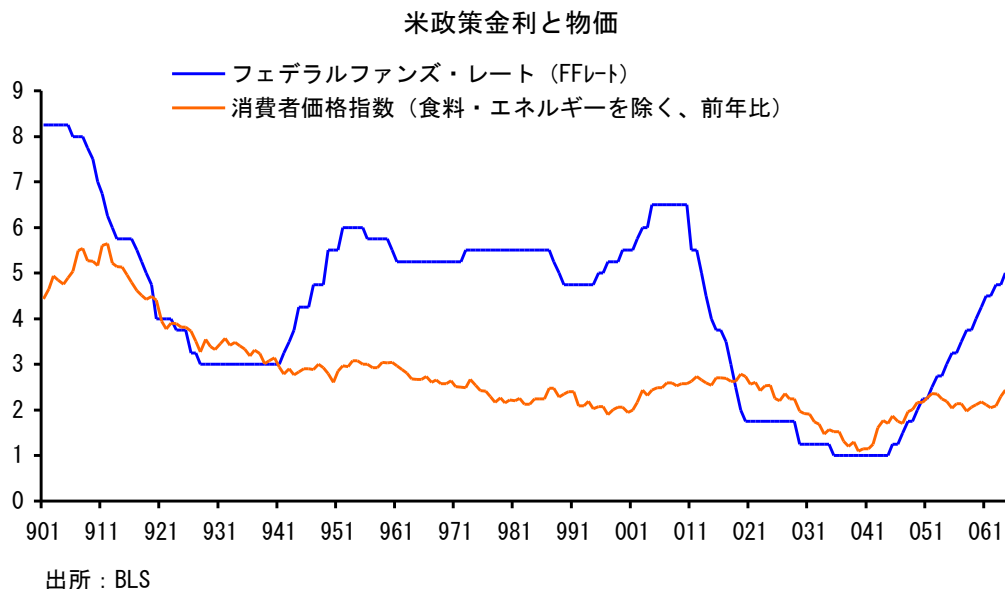
■ 米・EUの金融引き締めにより商品市況は反落へ

FRBは14日に発表した『地区連銀報告』で景気の減速懸念と価格転嫁の動きを指摘した。だが、ミシガン大学消費者センチメント指数は6月、前月比3.3ポイント高の82.4に改善し、5月の米小売売上高も自動車・同部品を除けば、前月比0.5%増、前年比9.1%と好調である。ガソリン給油所の売上増加分を除いても7.7%伸びており、米国の消費は引き続き旺盛といえる。

5月の米生産者物価指数は前月比0.2%増と3、4月の上昇率を下回った。前年比では4.6%と2ヵ月連続の伸び率上昇となったが、昨年9月のピークよりも2.3ポイント低い。食品・エネルギーを除くコア指数は前月比では0.3%上昇したが、前年比の伸びは1.7%にとどまっており、昨年10月以降、8ヵ月連続の2%割れである。完成財の前の段階である中間財やさらに前段階の素材価格はそれぞれ前年を8.9%、8.6%上回っているが、昨年10月をピークに低下しており、今後、それが完成財の価格低下に結びつくだろう。

5月の消費者物価指数のコアは前月比+0.3%と3ヵ月連続して同率の伸びとなり、物価情勢が厳しくなっていることを窺わせた。前年比では2.4%と2ヵ月連続で高くなり、05年2月以来の高い伸びである。総合指数は前年比4.2%上昇したが、住宅燃料と自動車用ガソリン等

だけで、総合指数は前年比2%も引き上げられており、これら燃料を除けば2%程度の伸び



になっている。米国の消費者物価は原油価格次第といえるが、70ドル以内で推移すれば、現状から大きく上昇することはないだろう。

先週、金や銅の価格は5月11日の高値からそれぞれ21.8%、22.3%も下落し、投機による異常な相場であった反動があらわれてきた。原油価格も早晚、金や銅と同じ運命をたどり、適正な値段に落ち着くことになろう。ECBが8日に政策金利を引き上げ、米国も今月28、29日のFOMCで利上げを実施する見通しである。中国の人民銀行も16日、預金準備率の引き上げを発表するなど、日本を除けば世界的に金融は引き締められ、流動性は絞られつつある。こうした金融引き締めは、資金コストを引き上げ、資金の運用姿勢を一層厳格なものにし、投機的な運用からの撤退を促すはずである。

WATと近隣形成

森野 榮一

WATには地域性がないという誤解には、すでにWATこそが近隣形成的であることを述べてきました。今回は、これをネットワークという点でみてみますと、よりWATチェインの性格があきらかになるようにみえる点につきお話させていただきます。

WAT以外の地域通貨は事前に一定のコミュニティないしクラスター（一団）を必要としています。なんらかの手段によりその存在を知り、加入の「儀式」を経て「仲間」となることで、そのシステムへの参加をみるわけです。

そうして、そのシステムが、地縁、血縁、職縁など、人が地域社会でもつさまざまな共同性のひとつに加わります。それがどの程度の強さをもつ紐帯となるかといえ、他の帰属先よりは緩いものでしょう。なぜなら好まぬ相手との取引であれば断り、さらにはシステム自体からの脱退という選択肢もあるからです。したがって、参加者は比較的容易に、己が帰属先の多層化（複数共同性への同時加盟）を実現します。それは地域社会における活躍の場を増やしていくものでしょう。そこに地域通貨のよさのひとつが認められます。

しかしシステムそれ自体が参加した加入者にネットワーク形成を動機づけていくかという、システム運営者によるイベント等の配慮がなければ、難しいのも実際です。いわば外的刺激が加入者をしてその活動を活性化させるともいえましょう。こうした機会の演出がシステム運営にとって荷の重いものとなっている事例をみることもありますし、それが功を奏して参加者の積極性が次々に生まれ出る事例もまた観察されるどころです。

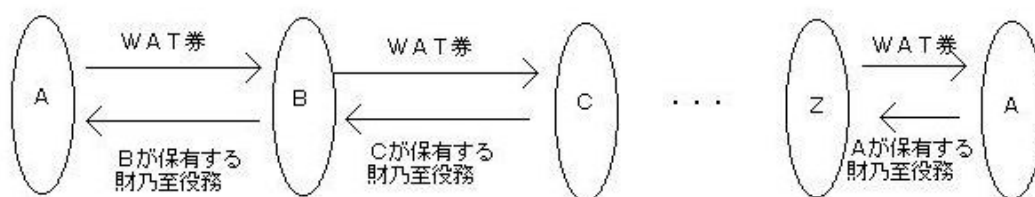
しかしWATはp2p（個人対個人）の関係から始まります。依るべき共同性がなにも存在しない裸の個からすべてが始まります。もちろん、世話好きの優しい人がなにくれとなくサポートしてくれるなどということはありません。逆にそうした人がいたとすれば、なにか怪しいと疑ったほうがよいのが世の中というものだとさえ考えるかもしれないのです。

WATを使うということは、ちょうどインターネットに接続した個人が悪意も善意もない交ぜになった、自由ではあるが、また危険でもある世界のなかで、つながりを求めようとするのに似ています。そこでは、かのシェークスピアの言葉といわれる、**Love all, trust a few.**が「信用当人止まり」の俚諺と共に思い起こされながら、しかし信用への一歩を踏み出さんとする個人の寄る辺なき状況における決断、握手を求めて差し出す手が存在します。そこではリスクはすべて個の双肩にかかっており、頼るべき共同性はひとつかけらもありません。

これはいかような共同性に己が帰属を求めても、私たちの置かれた状況の特質でもあります。まさしく私たちは例外なく誰をも愛するけれども、信頼の係りに立つていけるのはほんの僅かの人たちを通してなのだということでしょう。信頼の蜘蛛の巣はほんの少数の人たちとの信頼から始まります。ネットワークの形成は実に危うい淵に立ちながら形成されていくとも言えましょう。

WATでは、相識関係に立つAとBは取引をなし、その決済手段としてBがAに財ないし役務を引き渡すとすると、AはBにWAT券を引き渡すことになります。

ことがAからZを経てAに戻るプロセスを考えますと、



となり、ここで

- A－Bの関係で立つWATは発券取引、
 - Z－Aでは清算取引、
 - B－・・・－Zまでは通常取引
- となっています。

この反対方向に流れる上か下の系列を左か右にひとつずらすと、社会的にチェーンの数だけバーターが成立していることがわかります。この取引の連鎖はバーターネットワークとして成立していることがわかります。

こうしたA・・・Z－Aで完結するネットワーク形成はチェーンを重ねるごとに近隣形成的で、クラスタの形成に至る可能性をもちます。なぜなら、

- AとBは相識関係をもつ近隣を形成しています。
- BとCも同様。
- しかし、AとCが必ずしも相識的であるかどうかはわからない（近隣の近隣）。

(iWATの場合はBとCのWAT取引にAの承認が必ず必要なので、AとCは近隣形成を行う)。

- しかしCは相識関係にたつBからWAT券を入手します。
- つまり、知り合いの関係にある2者の中で常にWAT利用の取引が成立しているわけです（隣接する個人たちの取引）。
- と同時に、WAT券の裏書きは、発券者が債務不履行の場合、裏書人に遡及していくので、それを承知しているCは相識関係に立たないAと債務リスクをシェアすることに

なるので、Aについて情報入手しようとする動機が与えられる（どんな人が関心を抱かされる）わけです（第三者関与への関心を有する隣接する個人たちの取引）。

○ CがDにWAT券を使うと、DはAとBに対してCが持ったのと同様の事情に置かれます。

こうした、裏書きで連鎖するしくみは、反対向きに動く財ないし役務からみると、

☆ 必要なものは近隣から、近隣にないものは近隣の近隣から、近隣の近隣にないものは、近隣の近隣の近隣から

調達されており、自立した地場経済を確立するネットワークへの引き金となりうる性格をもっているでしょう。なぜなら、より近くにおり、相識関係に立ちうる可能性のある人から所望の財や役務を調達したいという動機が働くからです。それはWAT債務をシェアし合うことが近隣形成につながることをも意味します。そうして実際にWAT券が決済手段として使われるとき、例えば、DがEに使用するとき、両者は隣接した関係にあるでしょうし、そうではない場合はその取引が両者を隣接したものとするでしょう。EがDをよく知らない場合でも、AやB、Cを知っている場合は、EとDの近隣形成は容易でしょう。そうでない場合でも、EにとってDが近隣のAやB、Cに信用を与え、債務リスクを共有している（WAT券の裏書人になっているか、DであればEにそれを使用するさいに裏書人となる意向をもって、そのWAT券をEに使おうとしている）ことは、Dを信頼するかどうかの判断に意味を持ちうるでしょう。「人を信じている人は信じられる」かもしれないのです。少なくとも手を広げて他人と握手している人は自分とも連帯できると考え、手を広げて握手を求める意向を固めることができるかもしれません。信頼の蜘蛛の巣形成は握り拳（不信）からは始まることはできません。誰もが仲間になりうる（Love all）、しかし気を付けて、trust a few。具体的な誰その中からたった一人の握手する人ができます。その人はWAT債務の責任をシェアし合う人でもあります。

要するに、1枚のWAT券は取引を重ねながら緩慢に人々の緩やかなクラスタ（一団）を作っていく方向に向かいます。それはさらに、別のWAT券利用を促し、枚数分のクラスタ形成を通して、ゆっくりと一団としての粘性や結合性を増加させていく可能性があるわけです。WATの取引は連帯が責任性と対偶をなし両全となる関係を作りだします。世の中で人を信じてほぞを噛む経験は誰しもあるものです。またあれやこれやの信頼できるとされる共同性の不確実さも体験されるところです。しかしWATは個のレベルから信頼を再建しようとするものです。どのようなコミュニティ創造も基礎的な諸人格の連帯と責任を抜きにしては成り立ちえないというメッセージをWATは発信しています。

クラスタ（コミュニティ）形成にp 2 pが寄与しうるのは、こうした、プロセスとし

て網の目を形成していくネットワークの質を維持している場合と考えられます。人の関わりと財、役務の流れが網目を織り込んでいきます。それはローカル・メッシュと
いいうるでしょう。

quote of this week

利欲の心

世間様、少しは景気もよくなったとのお話をききますが、たしかに、いつに変わらぬ貧乏人にも財布に一葉さんの5000円札が入るときもあるようになりました。くずすと無くなるのも速いので、なるべく手許にと思うのですが、一葉さんのお顔をみるたびに思い出すは、下記のお言葉。

莊子が蝶の夢といふ世に義理や誠は邪魔くさし覚め際まではと引しむる利欲の心の斗量には黄金という字に重りつけて増す宝なき子宝のうへも忘るゝ小利大損いまに初めぬ覆車のそしりも我が梶棒には心もつかず握て放さぬ熊だか主義に理屈はいつも筋違いなる…

(樋口一葉、『別れ霜』、第一回、冒頭)

まあ、この世が夢の中としても、夢から覚めるそのぎりぎりまで、利欲のこころ消えはしないのか…

(森野 榮一)

人間の経済 第二期第50号(通巻128号)
2006年6月19日刊

編集・発行 ゲゼル研究会
221-0021 横浜市神奈川区子安通3-321 森野榮一気付
Gesell Research Society Japan
<http://grsj.org/>
info@grsj.org
Gesell Research Society Japan all rights reserved 許可無く複製・再配布を禁ず



ゲゼル研究会